様式第２号（第８条・第９条関係）

令和２年　３月１６日

白老町議会
議長　松　田　　謙　吾　　様

白老町議会議員　　小西　　秀延　　印

派　遣　結　果　報　告　書

日　時（期　間）	自　令和２年　２月１９日（水） 至　令和２年　２月２１日（金）　　（２泊３日）
目　　的　　地	静岡県御殿場市　　①御殿場市教育委員会　②時之栖 群馬県川場村　　①道の駅川場田園プラザ
調　査　事　項	・スポーツ振興とスポーツツーリズムによるまちづくり ・交流施設による地域活性化
視 察 の 成 果 （具体的に）	別紙に記載

※ 必要の都度、写真その他を添付すること。

１．静岡県　御殿場市

（１）スポーツツーリズムの目的

御殿場市では、恵まれた観光を活かし観光客の滞留促進を目指す「御殿場市観光ハブ都市づくり推進構想（H.23 策定）」の推進プロジェクトの一環でスポーツツーリズムに取り組み、御殿場市観光観略プラン(H.28～32)中に「御殿場らしい観光スタイルの確立」として「スポーツによる観光まちづくりの推進」といて位置付けられている。

（２）推進体制

平成 23 年度から平成 25 年度にスポーツツーリズム育成支援事業として当時の文化スポーツ課（スポーツ振興担当）で取組をスタートし、従来から進めていたスポーツ合宿誘致のみならず、市固有の自然環境やスポーツ環境を活かした取り組みを進めた。

その後、スポーツツーリズム推進事業として商工観光課（観光振興担当）が事業を引き継ぎ、平成２９年度には、商工、観光、農林分野を含めた「産業スポーツ部」を新設して、さらにスポーツツーリズムに力を入れて取り組むため「スポーツ交流課」を新設した。

現在は、東京 2020 オリンピックの自転車競技ロードレースが市域をコーストすることが決まったことを受け、「2020 オリンピック・パラリンピック課」が設置され、スポーツツーリズム推進の取り組みも担い、市民スポーツの振興やスポーツ施設等の担当として「市民スポーツ課」が設置され、両輪でスポーツ行政を担っている。（両課職員 11 名）

（３）重視しているスポーツ及びスポーツ施設

御殿場市では、特にゴルフ（三井住友 VISA 太平洋マスターズ）・馬術（ナショナルトレーニングセンター）・自転車（東京 2020）・空手（イタリア代表キャンプ）・アウトドアスポーツ（富士登山駅伝）・ラクビー・サッカー・モータースポーツなどがあり、2023ＦＩＦＡ女子ワールドカップに向け、日本開催について、御殿場高原時之栖スポーツセンターのトレーニング環境を生かし協力してキャンプ誘致を行っている。

（４）御殿場市の観光交流客数

平成 24 年度は、1,287 万 3,263 人であった観光交流客数は、平成 30 年度には、1,522 万 2,608 人と 234 万 9,345 人の増加となった。

２．静岡県　御殿場高原　時之栖

（１）株式会社　時之栖会社概要

創業は、平成６年３月４日で、資本金 3,000 万円、従業員 1,050 名（社員 180 名、パート・アルバイト 870 名）で、静岡県御殿場市にある総合観光施設「時之栖」の運営を主体にホテル、温泉施設、売店やレストラン、観光施設運営等を行っている。

（２）施設概要

① 静岡県東部エリア

御殿場高原　時之栖

・ホテル時之栖（360 名収容）
・ホテルブラッシュアップ（168 名収容）
・ブルーベリーロッジ
・フローライフヴィラ
・ブータンハウス
・日帰り温泉（天然温泉　気楽坊、茶目湯殿）
　他売店、レストラン

敷地外施設

・須走温泉　天恵
・富獄温泉　花の湯
・沼津インターグランドホテル
・レストイン時之栖
・富士宮ホテル時之栖

② 静岡県中部、西部エリア

・もりのくにコテージ
・駿府天然温泉　天神の湯
・静岡ホテル時之栖
・はままつフルーツパーク時之栖
・川根温泉ホテル

③ その他　　静岡県伊豆、神奈川エリアにホテル・温泉施設を有し、ブライダル事業、不動産事業も展開している。

（３）スポーツ施設

サッカー場

裾野グラウンド　　（天然芝４面、人工芝６面）
時之栖グラウンド　（天然芝４面、人工芝６面、フットサル２面）
うさぎ島グラウンド（人工芝５面）

テニスコート　住友ゴム社製オムニコート２面
ボーリング場　富士パークレーンズ
アリーナ　　ボルタリング、トランポリン、バトミントン、卓球
MTB&RUN　　マウンテンバイクコース

その他　　セグウェイ体験、パークゴルフ、ビーチバレー

［所感］

御殿場市はサッカーなどのスポーツが盛んなまちで、富士山を中心とする観光との融合に、スポーツツーリズムを推進してきた。その政策は、専門部署で遂行され、市民のキーマンとされるスポーツ関係者と良好な関係を構築し、官民連携の事業推進が可能となり、国内有数の先進地と呼ばれるようになった。

白老町も昭和51年にスポーツ都市を宣言し、大昭和製紙北海道野球部の全国都市対抗戦の優勝やスピードスケートのオリンピックメダリストを輩出するなどスポーツの盛んなまちとして発展してきた。また、今春、東京以北初となる国立博物館ウポポイが開設されるなど文化・観光のまちとしての一面も大きなチャンスの時を迎えていると言える。

この時にスポーツ・文化・観光の融合を推進する政策としてスポーツツーリズムの導入が最適であると考えられる。その為には、スポーツ全般を所管する専門部署の配置が必要不可欠で、推進計画を持って事業にあたる事が望まれる。

そして、スポーツツーリズム推進事業を成功させるためには、民間活力の導入が必須であり、官民連携の促進を望むものである。

３．群馬県　川場村

（１）株式会社　田園プラザ川場会社概要

設立は、1993年４月１日で、事業費は31億4,000万円。資本金は、9,000万円、川場村が60％の出資者で他９団体が出資している。従業員は140名（社員40名、パート・アルバイト100名）で道の駅を運営している。年間来場者120万人に至るまでになり、国交省の全国モデル道の駅（６駅）に認定された。

（２）事業目的と設置のねらい

川場村の村づくりの基本路線である「農業＋観光」の集大成事業と位置づけ、川場村の地場産品の振興及び新規開発を担うとともに、商業・情報・ふれあいの核である“タウンサイト”の形成の場として機能させる事が目的である。

設置のねらいとしては、21世紀を展望しながらコミュニティ活動や世田谷区との交流活動の一層の活発化、農業を中心とした地場産業おこし、田園や自然環境に相応した地域住宅づくり、村の核づくりなどに重点をおきながら成熟した村づくりを進めている。

（３）農業プラス観光の取組

1977 年誘客対策（観光施設整備）として、Ｄ51561 機関車と寝台車３両を国鉄から譲渡を受け、ホテルＳＬとして整備し、以後、テニスコート、キャンプ場、スポーツ広場等を整備した。そして、1989 年には、川場スキー場がオープンし、2012 年には天然芝のサッカー場を整備した。

（４）都市交流事業

1979 年世田谷区の基本計画の重点プログラムに「区民健康村づくり計画」が位置づけられ、区民がふるさと感を味わい、健康的な余暇時間を過ごせる大規模レク施設の設定を企画し、自治体、住民同士の交流により、相互の地域活性化を図る事とし、1981 年に区民健康村相互協定（52 市町村から選出される）に調印、交流事業がスタートした。

1986 年に２カ所の交流拠点（総工費約 27 億円）が整備開村され、運営会社「（株）世田谷川場ふるさと公社」を設立、世田谷区の全小学校（64 校）５年生 6,000 人が、５月から 11 月（2 泊 3 日）に教室を移し、体験学習を実施するようになった。

（５）道の駅川場田園プラザ事業（1989 年～1990 年）

世田谷区と川場村の協定 10 周年を迎え、次期 10 年事業の検討で提起された。1992 年からミルク工房（ヨーグルト、アイスクリーム）事業がスタートし、翌年、（株）田園プラザ川場が発足、1995 年にはファーマーズマーケット、1996 年にプラザセンター、1997 年にそば処虚空蔵、1998 年にビール工房・レストラン・パン工房と次々にオープンした。

その後も、2010 年より、様々な施設がオープンし、改良された。

運営状況としては、施設管理費として年間 2,600 万円、使用料収入 4,400 万円、寄付金 1.000 万円となっている。平成 24 年度の売上は８億 5,600 万円で入場者は 104 万人（現在は 190 万人）となっている。

（６）近年の田園プラザの運営

地方創生のモデルとして、国内をはじめ海外かも視察団が訪れている。しかし、ここに至るまでの道のりは、たやすいものではなかった。年々順調に入込客数を伸ばす一方で、売り上げは思いのほか伸び悩んでいた。そればかりか 2007 年には、赤字にまで転落。

この窮状を打開するため、村から事業の立て直しを依頼されたのが、現社長の永井氏であった。

永井氏が就任しまず取り組んだのは、スタッフの意識改革であった。全スタッフにヒアリングを実施、方針は自分が決定することを宣言。また、部門間の壁を取り払う委員会を設け風通しを良くすることで、自分の部署以外は

関係ないという風潮を一掃した。また、２か月に一度営業会議を開き、各部門の責任者が作成した月次計画書を基に業績の進捗を確認。現在、経営戦略会議と名を変え、年間 1,000 項目もの進捗確認が行われている。

そして、一流のおもてなしを体験させるため全スタッフによるディズニーランド視察も行った。その時のミッションは乗り物には乗らず、スタッフの対応を観察すること。これは、後の接客クオリティーの向上につながった。

永井氏が社長就任時、年間入込客数は約 62 万人。それが、11 年後には３倍の 190 万人である。売上高も２倍から６倍強に伸びた。成功の要因は「カワバプレミアム」という欧州のマルシェやデパ地下等、洒落た店の具現化と「オンリーワンへのコダワリ商品」であった。

［所感］

田園プラザで一番先に感じたことは、田園風景にゆったりと溶け込む店づくりであった。視察受講で理解出来た事は、1970 年代から取り組まれてきた「農業＋観光」事業が継続され、交流事業に進展、景観に配慮した近代ビジネスへと発展してきたということである。

白老町も古くから続くアイヌ文化があり、４月には国立アイヌ民族博物館がオープンする。今後は、アイヌ文化と共生する洒落たまちの風景に溶け込む近代ビジネスのあり方が問われるのではないかと考える。

御殿場市役所にて

時之栖　サッカー場と奥はトレーニングルーム

道の駅川場田園プラザ